おじゃましまーす

まだまだ元気！
高浜町おやジィーの会

「高浜町おやジィーの会」は2013（平成25）年に、定年後の男性たちによる地域交流と支え合いを目的に誕生した。現在は60～80代の総勢19名が活動中だ。

5月にあった、月に一度開かれる定例会にお邪魔した。和気あいあいとした雰囲気の中、ゴールデンウィーク明けということもあり、休み中の思い出話から活動報告まで、忌憚（きたん）ない声が飛び交う。定例会後には、講師を招いての勉強会も開催。この日は、4月に町内で新しくオープンした「高浜町地域福祉総合センターいぶき」についての説明や、今後の施設の在り方などについて、熱く意見交換した。会員たちの意見に熱心に耳を傾ける、担当者の姿が印象的だった。

高齢者向けの弁当配達や見守り活動、交流サロンの開催、スマートフォン講座、こども園や病院でのボランティア活動など、多彩な地域活動を展開するおやジィーの会。もともとは「ジィーの居場所づくり」として始まった会だが、今では地域を支える一端を担う存在だ。まだまだ元気な「おやジィー」達の、今後ますますの活躍に期待が高まる。

高浜町おやジィーの会の皆さん

長く愛用したくなる、世界に一つの逸品
越前おりものがたり

「越前おりものがたり 手作り袋物みや」を主宰する福井市の吉田みやさん（66）は、地場産の優れた素材を活かしたオリジナル袋物の制作・販売を行っている。主軸の素材は、適度な張りと美しい発色、豊富なデザインが魅力の県産の浴衣帯。吉田さんはこの上質な生地を「越前畳ヘリ」や「ほそもん（細幅織物）」、チュールレースなど異素材と組み合わせ、工業用ミシンで丁寧に縫製して大小の袋物のほかサコッシュや金封ふくさなどに仕立てる。華やかさと実用的な工夫を凝らした一点ものの作品は、和・洋どちらの装いにもしっくりとなじむ。過去には東京にある県のアンテナショップでも販売し、好評を博していた。吉田さんは「流通に載らない端切れやB反を活用することで、SDGsにも繋がる」と、環境に配慮したサステナブルなモノづくりを意識しながら、「福井の技の魅力を発信していきたい」と意気込んでいる。

現在は各地で開かれるイベントなどで展示販売を行っている。今後の出店予定は別枠の通り。SNS発信はしていないので、問い合わせなどがある場合は、午後5～7時に携帯電話＝090-7743-9251＝に電話するかショートメッセージで連絡を。

プレゼント

4月に坂井市のユリーム春江（和室）で開かれたイベント「Smile Days（スマイル デイズ）パワースポット」での吉田みやさんと、たくさんの商品が並んだショップスペース。イベントでは簡単なワークショップも開いている

6月13・14日
「大のほほんまるしぇ」（福井市風巻町 きらら館）

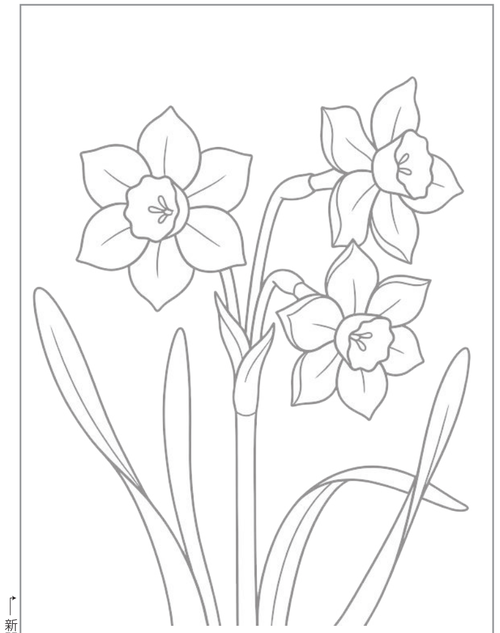
6月27・28日、7月25・26日、8月29・30日
「ハピリンCDEマルシェ」（福井市中央1丁目　ハピリン2階）

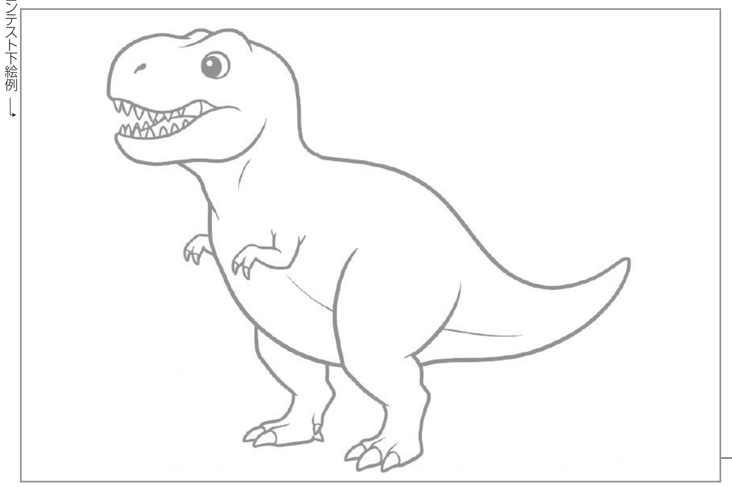
簡単♥おいしいクッキング～

ミックスベジタブルのひじき煮

【材料】
乾燥ひじき …… 10g
ミックスベジタブル（冷凍）
……1カップ
★砂糖 …… 大さじ1
★しょうゆ …… 大さじ1
★みりん …… 大さじ1
★顆粒和風だし …小さじ1/2
水 …… 50cc
ゴマ油 …… 大さじ1

【作り方】
①乾燥ひじきはたっぷりの水で15分ほど戻し、ざるにあげて水をきっておきます。
②フライパンにごま油を引き、①とミックスベジタブル（冷凍のまま）を入れて炒めます。
③調味料（★）と水を入れて、ふたをして中火で5分ほど加熱します。ふたを外して混ぜながら煮込み、煮汁が少なくなったら火を止めて完成です。

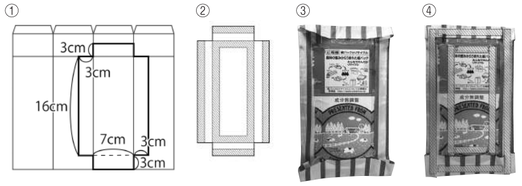

↑新聞ちぎり絵コンテスト下絵例↓



身近な材料で楽しめる♪
牛乳パックの小物入れ

使うもの
- 牛乳パック(1,000ml) 1個
  ※牛乳パックは洗って、乾かしておく。
- 布 17cm×25cm
- フェルト布 13cm×22cm
  ※布は内側に、フェルト布は外側に使います。
- リボン、ひもなど
- 両面テープ(粘着剤がアクリル系のもの)
  ※パッケージに表記されています。
- はさみ、またはカッター
- 千枚通し
- アイロン

作り方
①牛乳パックを開いて、図のように切り取り、点線の場所に折りスジを入れる。
②内側の白い面の、図の斜線の箇所に両面テープを貼り、布をシワにならないように、貼り合わせる。
③表にかえして、はみ出した布を折り返し、両面テープで貼り合わせる。
④写真の斜線の箇所に、折り返した布の上から両面テープを貼り、その上からフェルト布を貼り合わせる。
⑤布の種類に合わせて、なるべく高い温度でアイロンをかけて、圧着させる。
※羊毛以外の合成素材の場合は、低温度から試す。
⑥四隅を写真のように折り曲げる。千枚通しで穴を開け、ひもを通し、リボン結びにして完成。



⑤

⑥

思いが受け継がれる場所
人をつなげるブックカフェ

ハピラインふくい武生駅から徒歩3分にある「Book Cafe Godou（ブックカフェ ゴドー）」。休業期間を挟みながらも、店の歴史は約50年にも及ぶ。レコードから流れる音楽と本に囲まれながら、ゆっくりとした時間を過ごすことができる憩い空間だ。この店をつくったのは、店長の栗波シズエさんの夫であり、去年急逝した栗波和夫さんである。京都で学んだあと地元へ戻り、「音楽を楽しめる店を」と始めた。シズエさんが初めてこの店を訪れたのも音楽がきっかけ。友人から「ブルースが聴ける店があるよ」と聞いて足を運んだのが始まりだった。その時の出会いをきっかけに親交が深まり、やがて夫婦となり、一緒にこの店を営むようになった。

和夫さんが大切にしていたのは、音楽や絵、文章など、何かを表現したい人たちが自然と集まれる場所であることだった。絵を描く人、楽器を演奏する人、詩を書く人など、さまざまな表現者たちがこの店に集い、交流を深めた。

その思いは、今もこの場所に受け継がれている。夫が亡くなったあと、シズエさんは店を閉じることも考えたという。しかし、常連客やスタッフから「続けてほしい」と熱心に声をかけられたことから、営業継続を決めた。「今でも手探りです」と穏やかに話すシズエさんだが、言葉の端々からは、店と亡き夫への深い愛情が感じられる。店内に並ぶ古本の多くは、常連客たちが持ち寄ったものだ。もともと読書家の多い店だったこともあり、自然と本が集まってきたという。また、お客さんがレコードを持ち込み、店で流すこともある。音楽をきっかけに会話が生まれ、新しいつながりができることも少なくない。

訪れる人と丁寧に向き合う思いは、提供されるメニューにも表れている。コーヒーは注文を受けてからその場で一杯ずつハンドドリップで淹（い）れる。つくり置きはせず、目の前のお客さんのために用意するのがこの店のスタイルだ。人気メニューはチャイやパフェ。スタッフが手づくりするスコーンも好評で、若い世代からの支持も集めている。どのメニューも、できる限り手間を惜しまずに作っている。

「若い世代にもこの場所を訪れてほしい。ここでさまざまな人と出会い、話し、刺激を受けることが、それぞれの活動や表現につながっていけばうれしい」とシズエさん。

長い年月の中で、多くの人に支えられ受け継がれてきたこの場所。コーヒーを味わいながら、ゆっくりとした時間を過ごしてみては。

20代の頃の栗波さん一家
（来店客が撮影）

@BOOKCAFE_GODOU

ブックカフェ ゴドー
Book Cafe Godou
住越前市府中1-9-19
電0778-42-6711
営午後1時～午後6時30分
休木曜日（臨時休業あり）　駐5台

個人情報保護法
さんぽみちではお客さまに記入していただいた個人情報は、さんぽみちとお客さまの区域の販売店において適切に管理し、プレゼントのお届けなどに利用させていただきます。

読者からのお便りコーナー

お題は「結婚式」

職場の上司としてあいさつをすることが多く、ありがたやーって思っています。幸せな場所に行くとこちらまで幸せもらえますね。身内では来月、姪っ子の結婚式に出席するのがとても楽しみ！次はわが子と思っているけど…　（若狭町 50代 女性）

妹の結婚式に参列したとき、3歳の息子がじっとしていられず披露宴でおもちゃのギターで弾き語りの真似事…。走り回られ困っていましたが司会の方が優しく声をかけてくださり、新郎親族も温かく見守ってくださいました。優しい親族で助かった！　（鯖江市 40代 女性）

37年前式を挙げた当時は「案外緊張感ないし落ち着いているな」と思っていました。でも式場から披露宴会場まで乗ったタクシー内で爆睡してしまい起こされたような…。今思うとやっぱり緊張して前夜は眠れていなかったのかも？　（大野市 60代 女性）

最後に出席したのは、2人の娘の結婚式。もう十数年前ですが、何と1カ月違いで挙げたので慌ただしくあっという間に終わってしまいました。2人ともレストランウェディングでしたが、和やかな良い結婚式でした　（福井市 60代 女性）

私の結婚記念日は4月29日で結婚当時は天皇誕生日でした。現在は祝日になっており生まれ故郷でその日はお祭りです。一生忘れ難いですね　（坂井市 60代 男性）

39年前、当時にしては珍しい仏前結婚式を挙げました。若かったのでお金がありませんでしたが、今も心に残る結婚式です。（越前市 60代 女性）

子どもの頃、親戚の結婚式で姉と花束の贈呈をしました。渡した後に新郎新婦からお菓子の詰め合わせをもらえてうれしかったのですが、恥ずかしさに耐えられず姉を置いて走って母のところに戻りました　（あわら市 20代 男性）

投稿募集
投稿してくださった皆さま、ありがとうございました。次回のテーマは「願いごと」です。7月7日は七夕です。七夕に寄せて願いごとを教えてください。
※内容を変えない範囲で手直しすることがあります。ご了承ください。

今月の読者アンケートプレゼント

紙面をより良くしていくためにアンケートにご協力ください。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

応募方法
①希望のプレゼント　②住所、氏名、年齢、性別、電話番号　③現在購読の新聞名　④さんぽみちへのご意見・ご感想　⑤読者からのお便りコーナー、テーマ「願いごと」への投稿を記入の上、下記のいずれかの方法でお送りください。

■はがき　［宛て先］〒910-0005 福井市大手3-2-13
中日新聞分室内
「さんぽみち6月号プレゼント」係

■メール　osanpo@fukuikoho-c.co.jp
■LINE（ライン）　ID：@059fzwww
■ホームページ　投稿フォームから
※応募の際は「さんぽみちプレゼント係」と入力して下さい

A RIBBON'S CAFE（リボンズ カフェ）
21mm幅リバーシブルリボン1m引換券　**10人**

B 越前おりものがたり
「浴衣帯と畳へりのふくさ」（柄はおまかせ）

5人

締め切りは6月20日(土)必着
※当選者の発表は、プレゼントのお届けをもって代えさせていただきます。

スタッフ日記
「子どものころ、どこに連れていってもらったかな…」と振り返り、県内外問わずたくさんの楽しい場所での思い出がよみがえってきました。嶺南にも奥越にも行き、自然と触れ合ったり身体を動かしたり。さまざまなことに興味を持ったので両親はさぞ振り回されたことでしょう(笑)。マジックショーでアシスタントに選ばれたり、バルーンショーでバルーンアートをもらったりと、レアな経験もさせてもらいました。
たくさんの思い出をくれた両親に感謝するとともに、将来、我が子ができたら一緒に遊びに行き、色々な経験をさせてあげたいなと思いました。